

【第2蒸留塔供給槽オートストレーナ液張中、エア抜きベントに接続したブレードホースからの第2再生溶剤漏洩】 【第1報】

○発生日時：令和5年(2023年)10月20日 14時15分頃（床面に液漏れを確認した時間）

○発生場所：当初施設 蒸留エリア（管理区域レベル1）

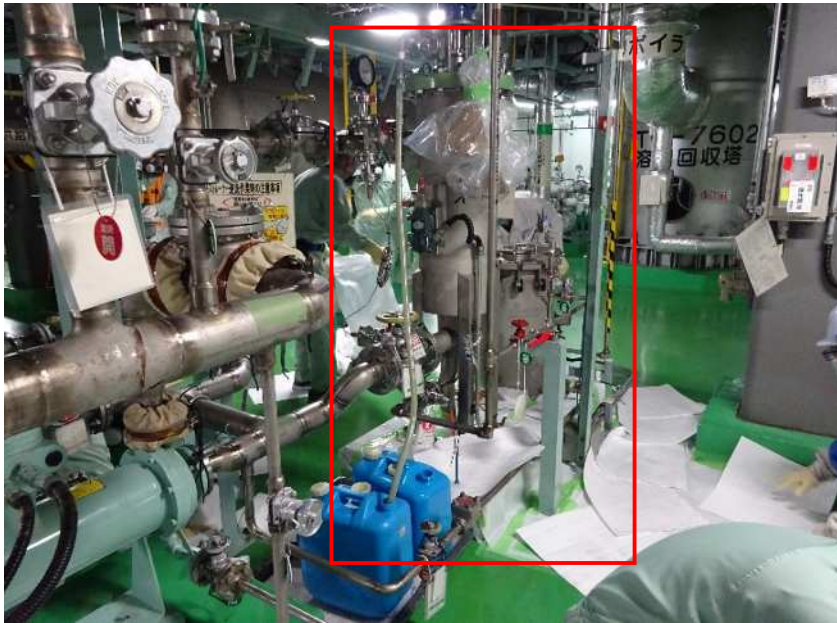
○公表区分：IV

- ・環境への影響：なし
- ・作業員への影響：なし

事象概要	発生原因	再発防止対策
<p>(トラブル概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期点検後の設備立ち上げのため、第2蒸留塔供給槽オートストレーナ（自動濾過装置）の液張り作業中の漏洩。 ・作業に当たっていたのは作業員A・B・Cの3名。 ・初めに作業員C（業務経験10年）は、第1蒸留塔供給槽オートストレーナの液張り作業を一人で行い、作業員A（本作業経験1回）及び作業員B（本作業未経験）のOJT教育を行った。 ・その後、第2蒸留塔供給槽オートストレーナの液張りを開始。 <p>3名の役割分担は次の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業員A：固液分離器液張り作業 ・作業員B：オートストレーナ液張り作業 ・作業員C：OJT及び現場指揮 <p>・供給槽オートストレーナの液張り作業の前段階である固液分離器への液張り作業時、オートストレーナが満液となりブレードホースを通じてポリタンクも満液となったことから、ホースが外れホースから床に第2再生溶剤（洗浄溶剤）が漏洩した。</p> <p>※資料1「設備・状況写真」及び資料2「トラブル発生時の作業状況等について」参照</p> <p>(漏洩状況の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・床面上の漏洩範囲：約2m×約1m＝約2㎡ ・漏洩液量：約12.8L（漏洩液回収作業から推定） ・漏洩液中のPCB濃度：0.013mg/kg（卒業判定基準未満） ・漏洩液回収作業中の作業環境測定結果：0.16ug/m³ 	<p>供給槽オートストレーナの液張り作業の前段階である固液分離器への液張り作業時、作業員Aが固液分離器の液張り作業が完了しているにも関わらず、液張りを継続する必要があると思い込み送液を続けたこと、オートストレーナが満液となりブレードホースを通じてポリタンクに流れ出したことに作業員A・B・Cいずれも気付くのが遅れたことから、ポリタンクが満液となり、ホースが外れ漏洩が発生した。</p> <p>上記事象が発生した原因は次の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①直前に第1蒸留塔供給槽オートストレーナでOJT教育を実施していたが、作業方法及び注意点等を作業員A・Bに十分に認識させなかったこと。 ②作業員Cは、作業員A・BにOJT教育を行っていたのでまかせても大丈夫と思い、関係者と液張り作業後の作業について打合せを行っていて、現場指揮を適正に行っていなかったこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在検討中。

資料1 設備・状況写真

第2蒸留塔供給槽オートストレーナ

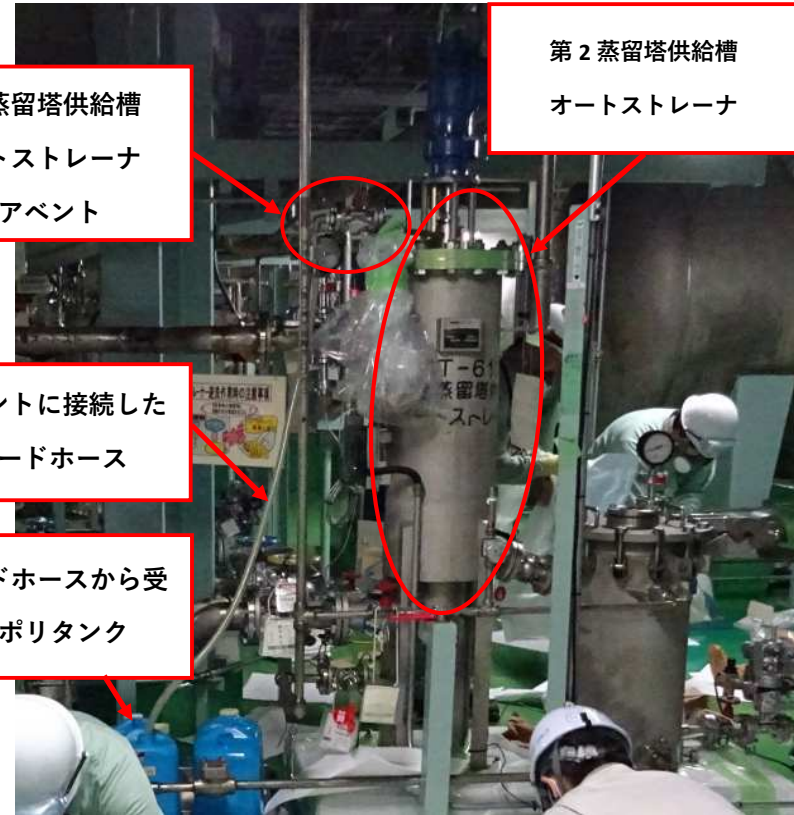


第2蒸留塔供給槽
オートストレーナ
エアベント

第2蒸留塔供給槽
オートストレーナ

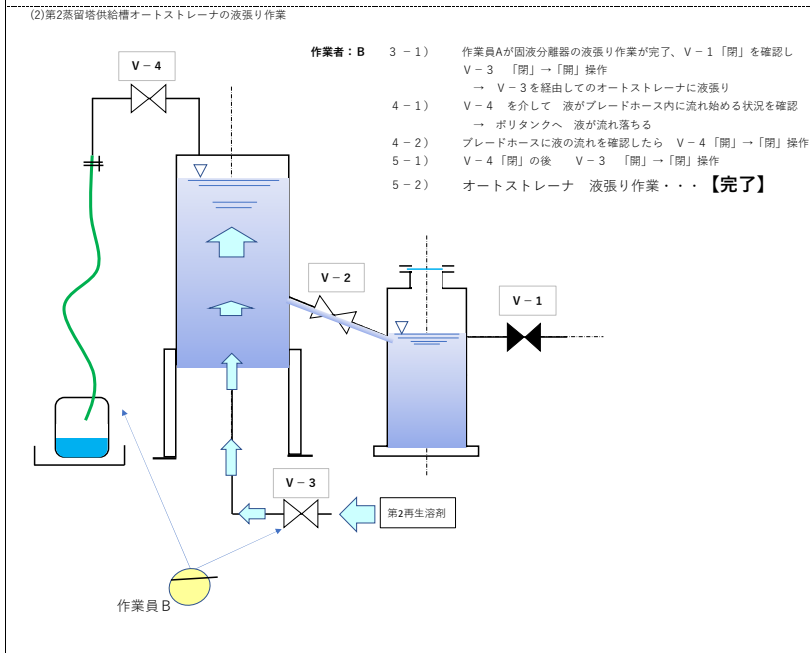
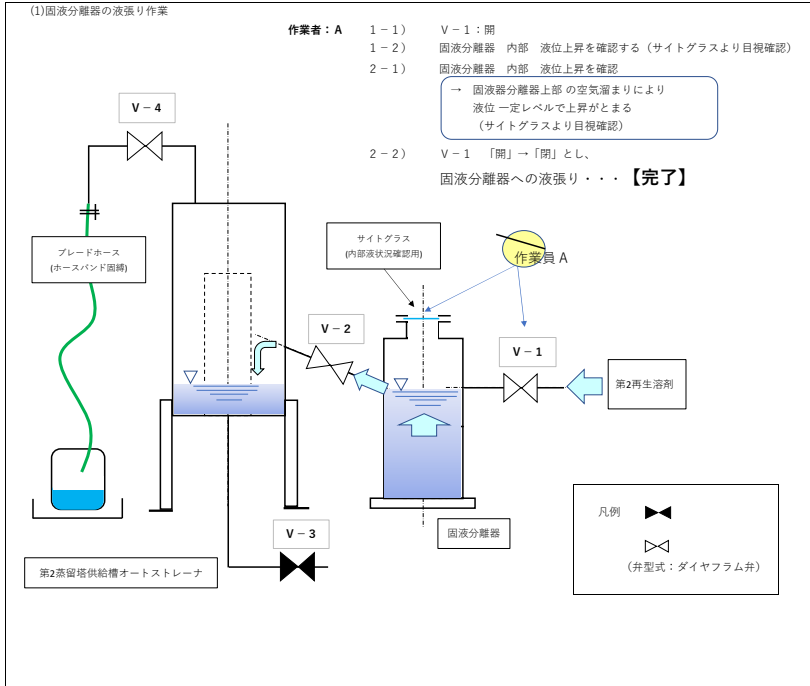
エアベントに接続した
ブレードホース

ブレードホースから受
けるポリタンク



資料2 トラブル発生時の作業状況等について

【想定していた作業方法】



【トラブル発生時の状況】

